



## ゴールドラット博士の TOC (34)

### ドラムバッファロープのロープ

6月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025年6月21日(土)

ロープ(Rope、縄)とは、ボトルネックの処理能力に合わせて前工程の生産を調整する仕組みである。このロープによって無駄に仕掛品を増やさず、ボトルネックの処理能力以上の仕掛品が流れ込まないようにすることで、生産ライン全体の流れを無駄のない、スムーズなものにする。

全体の流れを無駄なくコントロールする働きをする。

要は、工場を一つの全体として見て、前工程又は後工程が無駄に大量生産しないように全体の工程をコントロールするロープとして作用する。

工場を一体化するということはルールを新しくすることも必要である。

ERPを導入しててもルールを変えないことには、個々の業務において高い効率を上げようとするのは誤りである。ルールを変えるというもう一つの作業が残っている。

新しいテクノロジーのためにはルールを変更して新しいテクノロジーに対応する必要がある。

言い換えるとボトルネック工程の最大活用(無駄な待ち時間を減らす)をすることに、ルールの変更も加えて全体的な観点から注力する。

ロープ(Rope)は、ボトルネックのペースに合わせて前工程へ指示を出す仕組みとなる。前工程での作業開始をコントロールすることによって、必要以上の仕掛品が発生することを防ぎ、ムダな在庫の削減につながる。

生産ライン全体のスムーズな流れは納期の安定化につながる。結局、アウトプットを制限する要素である制約を特定し、工夫して対処することによって経営を向上させる経営哲学である。

ドラムバッファロープの目的は、ボトルネックに焦点を当て、その為のルールを作り、その能力を最大限に活用する、放置しないという考え方で、新しい工夫を加え結果的にボトルネックの弊害を改善しようとするものである。